

2023 年度第 8 回価格審査会の開催について

2023 年度第 8 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2023 年 11 月 15 日(水) 10:00~12:00
場 所	本部 6 F 大会議室
委 員	田中 弘 日本工営ビジネスパートナーズ株式会社 経営管理本部 コーポレートコミュニケーション室 シニアエンジニア 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 栞原 圭一 東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 早川 和利 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久 監査審査室 室長：黒澤 昭浩 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2023 年度第 7 回価格審査会議事録(案) 確認

2023 年度第 8 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
1. 「建設物価」12月号、「Web 建設物価」12月号
・価格が上伸した資材（工事費） 【Web 建設物価】 セメント（バラ）（宮崎市）、レディーミクストコンクリート（紋別市ほか25都市）、道路用砕石類（函館市ほか47都市）、再生砕石類（函館市ほか17都市）、PHCパイプ（岐阜市ほか3都市）、アスファルト混合物（網走市ほか26都市）、コンクリート積みブロック（滑面）（水戸市ほか3都市）、鉄スクラップ（鳥取市ほか5都市）、非鉄スクラップ（アルミ）（札幌市ほか6都市）ほか
・価格が下落した資材（工事費） 【Web 建設物価】 レディーミクストコンクリート（高松市ほか4都市）、再生砕石類（横浜市ほか1都市）、鉄スクラップ（札幌市ほか44都市）非鉄スクラップ（銅・亜鉛・鉛）（札幌市ほか8都市）ほか
2. 比較資料
・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	配線器具の最小・最大変動率が共に高い。補足コメントに「廃番に伴う対象製品変更により上伸」とあるが、どのような状況か。	価格変動した製品は古い規格の壁埋込スイッチである。当該規格の需要減少に伴いシェアトップのメーカーが廃盤にしたことにより、市場における主流製品が入れ替わったため大幅な値上がりとなった。
質問 2	熊本県における 3 地区のレディーミクストコンクリートが大幅に値上がりしている。最近、九州地区における大型工事の発注情報があったが、値上がりにこうした大型工事の影響はあるのか。	今回値上がりした熊本県内 3 地区のレディーミクストコンクリートの出荷量は前年同期を下回っている。値上がりの主な要因は、他地区と同様にセメント価格および輸送コストの上昇を反映したものであり、大型工事の影響は今のところ軽微とみられる。
質問 3	大規模な建築物や大型工場で使用する特注品を含むダクトが、「建設物価」掲載の平均的なダクトよりも大幅に値上がりしており、業界で説明に苦慮しているとの報道があった。こうした特注品の情報も追加してはどうか。	大規模な建築物や大型工場向けは、物件毎に仕様が異なるため標準的な価格の設定は難しい。問い合わせを受けることはあるが対応は難しいと回答している。
質問 4	H 形鋼の東京地区における市況コメントには「中小建築需要が低調に推移」とある一方で、「都心再開発事業は活発である」との説明コメントもあった。実際の建築需要はどのような状態なのか。	都市部の再開発案件などの大型工事は活況である一方、一般店舗や小規模マンションなどの中小規模案件は、資材高騰や人手不足の影響から計画の見直しなどが発生し低迷している状態にある。
質問 5	ストレートアスファルトの値上がりに対する補足コメントに「原材料(原油)調達コストの値上がり」とある。原油は現在値下がりしているが、調達コストが値上がりしているとは、どういう意味か。	一般的に原油調達からストレートアスファルト製造までに、約 1 ヶ月程度の期間を要する。値上がりしていた時期の原油調達価格が、現在の製品価格に反映されているという意味である。
質問 6	レディーミクストコンクリートの東京 17 区における市況コメントに「出荷ベースでの値上げというこれまでにない協組の表明」とあるが、「出荷ベースでの値上げ」とはどのような意味か。	従来の契約は「契約ベース」と言われており、長期間契約でも終了まで契約時点の価格が維持される。一方、「出荷ベース」は長期間契約でも、出荷時点で価格が見直される契約である。東京 17 区の生コン協組は 2024 年 4 月から「出荷ベース」の値上げを表明している。

質問 7	<p>ストレートアスファルトは全国的に値上がりしているのに対して、アスファルト混合物の上昇地区は北海道・東北・九州の一部地区に限られている。ストレートアスファルトとアスファルト混合物で値上がりした地区に差がある背景は何か。</p>	<p>ストレートアスファルトは、全国展開している石油メーカー等が生産しており全国的に類似した値動きをする傾向がある。一方、アスファルト混合物は、加熱状態で現場に持ち込む必要があるため、輸送距離の関係から地区ごとに生産メーカーが存在する。そのため地区ごとに異なる値動きをする傾向がある。</p>
質問 8	<p>「自由勾配側溝」「各種側溝」「地区別コンクリート製ます類」などのコンクリート二次製品類に最大変動率が大きいものが多い。その理由は一部地域の値上がりなのか、それとも一部規格の値上がりによるものなのか。</p>	<p>コンクリート二次製品類で最大変動率が大きいものが多い理由は、出荷が低調である一部規格で大幅な値上げが行われているためである。</p>
質問 9	<p>「組立式マンホール」で福岡市だけが値上がりしている。他都市と比較すると現在の価格水準はどのような状況か。</p>	<p>「斜壁 上径 600×下幅(600×900)×高さ 600mm」を例にあげると全国最低価格は大阪地区の 27,700 円である。東京地区では 45,400 円で、九州地区は 39,900 円となっている。東京地区では過去 2 年間で既に 2 回値上がりしており、九州地区は今月値上げが浸透したという状況である。</p>
質問 10	<p>再生砕石は「それぞれの地域の需要と供給が価格に影響する」と説明コメントがあったが、影響する地域範囲はどの程度の広さとなるのか。</p>	<p>再生砕石もその原材料となるコンクリート廃材も、製品価格に対する運搬費の比率が高いため、運搬距離は限定されてくる。結果、影響範囲は近隣市町村程度となっており、この範囲での地域生産・地域消費となる傾向が強い。</p>
質問 11	<p>アスファルト混合物の値上がりした地域が、一部地域に限られている理由は何か。値上がりした地域には何か大型工事や災害復旧などの特別な状況があるのか。</p>	<p>値上がりした地区に特別な状況があるのではなく、値上げ交渉の進展が地域ごとに異なっており、結果として一部地域のみ値上がりした。</p>

質問 12	<p>再生砕石に関して3つの質問がある。1つ目は、横浜や東京17区地区の市況コメントに都市再開発事業からのコンクリート廃材の発生量が増加しているとの記載があるが、これは記載地区に限ったことかそれとも全国主要都市では同様な状況なのか。2つ目は、コンクリート廃材の発生量が少ない地区で再生砕石の需要が発生した場合には、発生している都市部からその地区に運搬して再生するのか、それとも近隣地区のみの流通なのか。3つ目は、都市再開発事業では廃材として鉄スクラップも発生すると思うが、鉄スクラップの値上がりは、需要に対して鉄スクラップの発生量が足りないから値上がりしているということか。またその流通範囲はどの程度なのか。</p>	<p>1つ目の横浜や東京17区地区以外の都市のコンクリート廃材の発生量に関しては、全国主要10都市で発生量が多いという状況にあり値上がりしていない。二つ目のコンクリート廃材の流通範囲に関しては、コンクリート廃材は産業廃棄物となるため県内処理が原則であることに加え、重量あたりの価値を考慮すると費やせる運搬コストには限界があるため、県内近隣処理施設に持ち込むことが多い。3点目の鉄スクラップ価格については、発生量による需給の影響もあるが、輸出価格との競争の影響のほうが強い。また、流通範囲については、鉄スクラップは重量あたりの付加価値が高くかつ産業廃棄物ではないため、運搬コストをかけて買い取り価格の高いところに持ち込む傾向があり、近隣県まで運搬することはある。</p>
質問 13	<p>コンクリート二次製品の上伸の補足コメントに「原料高や輸送コストの増加」とあるが、ここで言う輸送コストとは燃料費とドライバー人件費のどちらの要素が強いのか。</p>	<p>製品メーカーは原材料価格のほか輸送業者の値上げ分を製品価格に反映している場合が多い。一方、輸送業者はドライバー確保のため値上げを打ち出していることが多いため、人件費の要素が強いといえる。</p>
質問 14	<p>今月はコンクリート用砕石の値上がり地区が多く見られる。過去からの経緯を振り返ると、コンクリート用砕石の値上がりには、レディーミクストコンクリートの値上がりがあり、レディーミクストコンクリートの値上がりには、セメントの値上がり背景にあった。セメント、レディーミクストコンクリート、コンクリート用砕石の順番で値上がりしたこの流れは、過去も同様だったのか、それとも今回が特別なのか。</p>	<p>セメント、レディーミクストコンクリート、コンクリート用砕石の順番で値上がりしたのは、今回の値動きの特徴として捉えている。過去にはコンクリート用砕石が単独で値上げした時もあり、必ずしもセメントが先ということではない。今回はセメントとコンクリート用砕石の値上げの動きがほぼ同時期であり、全国大手のセメントメーカーの交渉力によりセメントが先に値上がりしたということがこの順番になった要因の一つである。</p>
審議結果	<p>「建設物価」12号、「Web 建設物価」11月号の価格動向に問題はなかった。</p>	

以上